

風のひろば

December

2020

vol.17

コロナ禍のもとでの
授業・実習の実施

大学の今

トピックス

卒業生インタビュー

看護学実習を終えて

研究紹介



コロナ禍のもとでの授業・実習の実施

●対面授業の開始にあたって

COVID-19の感染は、まだまだ収まらない状況で、Withコロナの時代に向けて新しい生活様式が求められています。本学は、看護学実習が断続的にいづれの時期にも組まれているため、学生、教職員には、より厳しい制限をお願いし、感染予防対策に万全を期しています。特に、在学生には多くの制約も課しているところですが、学生たちは感染対策に理解と協力を示し、一人の感染者も出さずとなく、今に至っています。

本学は、対面授業開始に向けてさまざまな取り組みをし、6月1日から対面授業を開始しました。学生たち、特に1年生は待ちに待った対面授業だったと思います。久しぶりにキャンパスで友達と嬉



講堂での対面授業(国際看護学概論)

しそうに笑顔で話している当たり前の姿に、感謝したり、ホッとしたり、エネルギーをもらいました。また、4月から学年暦通りに授業を実施できたため、夏季休暇を短縮することなく、9月に授業が開始できました。夏季休暇中は県外移動の機会がありましたので、授業開始時は2週間のオンライン授業期間を経て、対面授業を再開し、現在も継続しています。看護学実習は、実習施設の多大なご協力のもとに臨地実習が可能となっています。臨地実習ができない場合も現場の指導者から講話などで沢山のご協力をいただき、感謝しています。学内実習でも教員がさまざまな工夫をしています。多くの方々のサポートのお陰で、教育が実現できていることを再認識するとともに、充実したカレッジライフが送れるように学生・教職員一丸で乗り切っていければと思います。

〈学部〉

●初期体験実習(一年次七月)

「VRを活用して学内演習を効果的に行う」

1年次前期の初期体験実習は、COVID-19の影響で臨地での実習が困難となりました。

1年生にとっては、「病院」という場で白衣に身を包み、「患者」の生活の場を見てそこで行われている「看護」を目の当たりにすることで、「看護」について考えることができ、今後の動機づけとなる最初の

実習のはずでした。そこで、学内演習を効果的に行うためにVR(Virtual Reality)を活用して臨場感を味わえるように工夫しました。VRは、あらかじめ臨地で看護場面を撮影し、学生がその場において看護師の行うケアを体感できるように編集を行いました。

また、看護職の活動の配信番組を視聴し、病気体験の書籍購読を実習前の課題として演習に臨みました。学生はVRを体験した後、テーマに沿ってディスカッションし、最終日にそれらの集大成として、演習を通して学んだ「患者中心の看護」「看護師の役割」「看護実践に必要な能力」等について全グループで発表を行いました。演習中は、実習と同様の意識を持ってもらうため、ユニフォームを着用し身だしなみも整えて緊張感が緩まないように留意しました。

学生の反応として、観察から得られる客観的データとそれに基づく看護、コミュニケーションを通しての気づきの重要性、患者・看護師間の信頼関係の重要性等がありました。特にVRにより患者の様子をよく観察して対応している看

実習の行動から「看護の役割」についての気づきが多かったようです。VRの活用は、当事者として臨地で看護場面の中に居る感覚が持てたと思われ、効果的であったと評価しています。COVID-19の感染防止の厳戒態勢の中、VR撮影を快く許可していただいた大分医療センターにこの場を借りて感謝申し上げます。

●総合看護学実習(四年次六〜七月)

総合看護学実習は学部で行う看護学実習の最終段階にあたり、実習の集大成となります。学生が学んできた知識・技術を統合し、強化・発展させること、看護職として働く環境を理解することなどをめざす実習です。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防策を十全にとりながら、どのようにすれば実習での学習効果を確保できるか、学生、実習施設の皆さま、大学の三者で手探りしながらの実習となりました。

感染予防対策として、4年生には実習開始2週間前からのアルバイト禁止等、感染リスクを避けるための行動制限をしていただきました。当初の実習期間は2020年6月15日〜7月3日の予定でしたが、状況によって実習開始・終了日を施設毎に柔軟に変更しました。また、状況に応じて臨地実習とオンライン実習を組み合わせる等の工夫も行いました。例年6月前後から秋にかけては、就職活動の時期でもありません。今年度は就職希望施設の試験日が



初期体験実習 グループ発表

直前に決まる場合もあり、4年生は施設指導者や担当教員と連絡をとりながら実習と就職試験の日程を調整するのが大変だったことと思います。

皆さまのご協力により、7月20日に4年生全員が無事に実習を終えることができました。「実習にいかけてよかった」という学生の感想を聞いて、教職員一同いつにも増して嬉しく感じた次第です。

●母性看護学実習(三年次九月～十一月)

コロナ禍における母性看護学実習は、学生は県外移動・アルバイト禁止で、毎日体調管理表を記載し、マスク着用、手洗い、手指消毒を十分に実施して実習に臨んでいます。実習1日目(原則)は、妊婦計測、新生児計測、沐浴の技術演習をフェイスシールド、マスクを着用して、学内で実施しています。

また、学生全員が臨地実習を経験します。1施設では学内実習と臨地実習を併用し、臨地実習4日間で受け持ち事例による



母性看護学実習学内実習

看護過程の展開、分娩期と産褥期の看護、退院指導の見学等を行っています。他の施設では外来、病棟で7日間の実習を行い、母子とその家族への看護を学んでいます。

さらに、今年度は助産院実習を開始し、学生はZOOMにて対象者と一緒に学級活動に参加し、院長先生から骨盤ケアに関する講義を受けて、その後学びについて討議しています。

実習最終日(原則)には、大分県立病院総合周産期母子医療センターの産科部長、副部長、堀永産婦人科の師長、開業助産師、大分県不妊専門相談センターの不妊カウンセラーの講話を聴講しました。

このように母性看護学実習を試行錯誤して実施していますが、実習は臨地で学び、対象者を通して看護や自己を振り返ることが大切と痛感もしています。

〈大学院

●大学院修士課程NPコース

大学院修士課程NPコースは診療看護師を育成する課程であり、学生は看護師資格をもち臨床経験5年以上の実績をもっています。その背景もあり、学生全員が病院で診療を学ぶ実習ができました。実習施設からは「COVID-19という医療課題に対し、大学院修了の診療看護師がどのように臨むのか、学ぶ機会としてほしい」と厚意的な支援を頂きました。

学生は、感染者に直接接するよう診療は体験しないものの、間接的に感染者対応する中での医療体制、発熱外来等の臨床推論・技術を学びました。ただ、高齢者診療の現場ではCOVID-19の影



老年NP実習履修学生と指導者(診療看護師) 大分県厚生連鶴見病院にて

響は免れず、11月以降の診療所や介護老人保健施設での実習は一部学内実習とし、豊後大野市民病院に、急遽実習施設として協力を依頼しました。この急な依頼にも医師や看護部の快い理解が得られ、実習から卒業教育を通じた協力連携体制の道が開けました。さらに学内実習では本学の修了生である診療看護師らが指導にあたり、学生はロールモデルを見て実習を行いました。

コロナ禍で種々の制限を受けましたが得られたものも大きいです。実習施設の理解と協力体制、修了生である診療看護師に感謝します。実習施設を含む医療現場に診療看護師の力が還元できるよう、本学として努力する思いを強くしました。加えて、規制緩和に動き始めたオンライン診療や多様な医療課題に対しても、診療看護師としての活動を考える契機ともなりました。

●助産学コース臨地実習

大学院助産学コースの臨地実習は、2年次生「ハイリスク妊産婦ケア実習」、1年次生「NICU課題探究実習」、「妊娠期課題探究実習」の一部について学内実習を行いました。

1年次生の「NICU課題探究実習」は、低出生体重児やNICUの雰囲気イメージするためにDVDを活用し、児と保護者の背景を考慮した援助についてディスカッションし、紙上事例を用いた看護計画を立案し、早産児シミュレーターで看護ケアを実演しました。学生は、児をひとりの人として尊重し、成長発達を促すケアを通して命を育む場という視点をもつことができました。最終日前日に大分県立病院NICUの副師長にNICU病棟における看護の実際、周産期他部門や地域との連携についての講話(ZOOM)をいただき、家族中心の看護についても学びを深めることができました。

大分県立病院産科外来における「妊娠期課題探究実習」は、超音波診断装置の基礎の復習を行ったうえで、紙上事例を用いた産科外来における妊婦健康診査を実演しまし

た。実演場面をビデオ撮影し、グループディスカッションで対応方法を振り返り、実演を重ねまし



NICU課題探究実習学内実習

た。また、2年次生とともに大分県立病院総合周産期母子医療センター産科の師長・副師長に周産期センターでの助産師の役割や多職種との連携について講話（Zoom）を聴く機会を得、ハイリスク妊産婦への助産ケアの実際をイメージすることができました。

● 広域看護学コース

広域看護学コースでは、3タイプの実習（地域生活支援実習、地域マネジメント実習、広域看護活動研究実習）を行っています。

一つ目の「地域生活支援実習」は、対象者とその家族を半年間定期的に訪問させていただき、家族の抱える健康上の困難や家族の強みを理解し、支援の方向性を考えていきます。コロナ禍の中、9月から開始時期を遅らせましたが、1回目の訪問を終え、次の訪問に向けて計画を立てているところです。

二つ目の「地域マネジメント実習」は、県内の市町において約1ヶ月間実習を行います。家庭訪問や地区に向い地域住民と接し、その地域の生活や保健行動などの実態や特徴を把握し、支援の方法を考えていきます。10月1日に成果報



「地域マネジメント実習」成果報告会

告会（Zoom）を行い、32名もの保健師さんが参加してくださり、「情報収集↓地域診断↓課題分析↓計画立案↓活動展開の提案がしつかりできていた」や、「保健師活動の大切な部分を見出し、いく過程が素晴らしいと思いました」などの感想も頂きました。

三つ目の「広域看護活動研究実習」は、県内の保健所において、今後必要な社会資源や健康政策・保健医療福祉システムを考察・探求し、今後の方向性を学生が考えていきます。COVID-19に対応している保健所での実習は、実施できるか危ぶまれましたが、「保健師になる院生さんに現場を知ってもらえるいい機会になります。」とおっしゃっていたとき、充実した実習に取り組むことができています。

大学の今

予防的家庭訪問実習の開始

2015年度からカリキュラムに本格導入して今年で6年目を迎えた予防的家庭訪問実習は、1〜4年生の縦割りで構成された80のチームが地域の協力者様のお宅に訪問して、健康や生活に関するお話を伺い、健康維持の方策を一緒に考えさせていただく実習です。

本実習は毎年4月からスタートしますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の



感染予防のため、約半年間、訪問は休止しておりました。休止の期間中、3、4年

次生による協力者様への電話訪問を行いました。協力者の皆様から自粛生活による影響や感染症対策について教えていただきましたが、学生たちは電話で体調をお聴きすることの難しさを経験しました。また、2、3年次生を対象に訪問地域について学ぶオンライン講義を行いました。この講義では、地域で活動されている民生委員の方をはじめ、大分市植田支所長と野津原支所長、地域包括支援センター長の皆様に講師としてお話をいただきました。

学生と教員へ本実習における感染対策について説明を行い、10月21日より今年度の訪問実習を開始しました。訪問へ向かう前は、教職員による体調確認を行っております。今後も感染対策を十分とりながら、本実習を行ってまいります。

法人評価委員会

令和2年度大分県地方独立行政法人評価委員会が、8月3日（月）にトキハ会館で開催され、6年間の中期計画の2年目に当たる令和元年度の業務実績が評価されました。毎年、このために業務の実績に関する報告書を作成し、理事が県内外の教育界や経済界からの外部評価委員を個別に訪問して実施状況を説明しに伺ったり、外部評価委員による現地調査等があります。

法人評価委員会当日は、外部評価委員と公立大学法人を所管している大分県の政策企画課と医療政策課、事務局を務める行政企画課、そして本学からは理事長、理事、事務局の計9名が出席しました。はじめに、村嶋理事長が本学の概要と令和元年度計画の実施状況を報告し、その後、評価委員からの質問を受けました。

中期計画58項目や年度計画113項目の実施状況から評価されました。その結果、看護師・保健師・助産師の国家試験合格100%、カリキュラム改革やアドミッシヨソオフィスの設置準備、予防的家庭訪問実習、多くの卒業生・修了生が県内の医療機関や自治体に就職し、地域医療に貢献した点等が高く評価され、「教育研究」でS評価（＝特筆すべき進捗状況）を頂きました。その他4つの大項目（「業務運営」「財務内容」「自己点検・評価及び情報提供」「その他」）もA評価（＝計画どおり）であり、中期計画の2年目としては高い評価を頂きました。

今後も、学生や地域にとって魅力ある大学づくりに向けて、積極的に工夫や改革を進めて参ります。

第2部では、大分県の豊後高田と南部地域の看護管理者の皆様が看護の地域ネットワークを通して看護管理を高める取り組みを発表されました。総合討論では、活発な意見交換が行われました。



■看護国際フォーラム

10月31日(土)に第22回看護国際フォーラムを大分県看護協会と共催で開催しました。今年度は新型コロナウイルス感染症の現状を考慮し、感染拡大防止を目的にオンライン開催となりました。当日は全国から200名を超える方々に参加いただきました。

今回は「AI・ICTが創る医療・看護の可能性を語ろう」をテーマとして、森口 真由美先生(北原国際病院 看護統括)、井上 創造先生(九州工業大学 教授)、Dana Womack 先生(オレゴン健康科学大学)、Natalya Pasklinsky 先生(ニューヨーク大学校看護大学)を講師に迎え、それぞれ自身の活動やさまざまな視点や考え、事例をご講演頂きました。時差の関係で海外講師のお二人は事前録画の講演となりました。質疑応答では皆様から多くの質問がありました。

AI・テクノロジーとの共存のあり方を問う中で、医療・看護のあり方を捉え直すため貴重な場となりました。



■南大分キャンパス

6月から南大分キャンパスの外壁改修塗装工事を行っていましたが、8月末に工事が終了し、きれいに生まれ変わりました。

学生の皆さんが、ますます実習に励んでいただくことを期待します。



■ミニオープンキャンパス

8月17日(月)、8月18日(火)にミニオープンキャンパスを開催しました。オープンキャンパスを新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とする中、対象を絞り、対策を万全に講じたうえで実施し、高校3年生およびその保護者、合計69名に参加いただきました。

大学の特徴や入試の概要説明を行い、その後のキャンパスツアーでは実習室等学内の施設を見学しました。



■大学院研究計画、中間報告会

8月26日(水)に研究中間報告会、8月27日(木)に研究計画報告会をZoomを用いてオンラインで行いました。

発表するポスターを事前に公開し、当日は簡単な説明の後、質疑応答を行いました。分科会形式で行ったにもかかわらず多くの教員・院生が参加し、活発な質疑が行われました。

医療的ケア児の保護者が行った就学準備の実態
— 医療的ケア児が進学先校に入学する際の課題と養育者支援の在り方の一考察 —

目的
養育者支援として、医療的ケア児に必要な小児看護学領域の看護教育に際しては、医療的ケア児の保護者や関係者による調査・研究の重要性が指摘されている。本研究は、医療的ケア児の保護者が行った就学準備の実態を調査し、その課題と養育者支援の在り方を考察する。

方法
大分県立看護科学大学に在籍する看護学専攻1年生10名を対象に、医療的ケア児の保護者であるか、保護者が行った就学準備の実態を調査した。調査期間は2020年10月～2021年3月。調査方法は、保護者であるか、保護者が行った就学準備の実態を調査した。調査期間は2020年10月～2021年3月。調査方法は、保護者であるか、保護者が行った就学準備の実態を調査した。

今後のスケジュール

項目	予定	完了
調査実施	完了	完了
データ整理	完了	完了
論文執筆	完了	完了
発表準備	完了	完了
発表実施	完了	完了

発表に使われたポスターの例

■中小規模病院等看護管理者支援研修

10月24日(土)に令和2年度大分県中小規模病院等看護管理者支援研修が大分県看護協会で開催されました。この研修は今年で4回目となりますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3密を避けた会場に加えて、オンラインを活用し、約100名の看護管理者の皆様が参加されました。第1部では、大阪府南河内地域の看護管理者の皆様が看護管理者ネットワークを通じた様々な活動をご紹介します。

■Web進学相談会

5月21日(木)から6月5日(金)にかけて、令和2年度進学相談会をWebで開催しました。毎年この時期に県内各地で開かれる相談会が新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となる中、少しでも早く受験生に情報を提供し、不安を和らげてもらうことを目指しました。

19名の高校3年生とオンラインで面談し、大学の特徴や入試の概要を説明し、生徒の質問に答えました。

■助産師能力強化研修

8月8日(土)に助産師能力強化研修「経腹超音波検査」研修を行いました。

本研修は、大分県内の助産師さんを対象に、大分県立病院の佐藤昌司副院長を講師に招き、産科超音波の基本原則とエコーの実践演習を行うものです。新型コロナウイルス感染予防策を図りながら、少人数での開催としました。

参加した助産師さんからは「わかりやすい説明で楽しかった。」「身近な超音波検査だが、技術の向上のためにはさらなる勉強が必要だと痛感した。」「分娩時の胎向を確認したかったので活かせそう。」「今後に繋がる感想をいただき、有意義な研修会となりました。」



■Webオープンキャンパス

8月18日(火)からWebオープンキャンパスサイトを公開しました。

2020年度オープンキャンパスは新型コロナウイルス感染拡大防止と参加者の安全を考慮し、Webオープンキャンパスとして開催しました。

大分県立看護科学大学での学びや学内の様子を自宅から体験していただけるよう、入試概要や大学施設を紹介する動画、在学生からのメッセージ、模擬授業など本学のYou Tubeチャンネルで公開しました。





大分県立看護科学大学
看護アセスメント学研究室
助手 内倉 佑介

私は、平成27年に本学を卒業しました。卒業後、大分大学医学部附属病院で看護師として1〜2年目は集中治療部、その後は呼吸器病棟に配属となりました。

集中治療部では重症な患者さんや複数の診療科の手術後の患者さんに対して看護を提供するため、解剖や治療、術式や検査値などについて学習に追われる日々でした。覚える内容や考えることはとても多く、つらい時期もありました。が、患者さんが元気になって退室したり、重症であった患者さんが集中治療室まで歩いて退院のあいさつに來たりした際に、看護のやりがいや喜びを感じる事ができました。

呼吸器病棟では、退院後の生活について深く考えました。老々介護や独居等の患者さんに対して、服薬や症状の管理を適切に行っていたら良かったら、どのように関わることが一番良いのかについて毎日のように悩みました。多職種カンファレンスなども頻回に行われていたのですが、その際に、患者さんの思いや家族の思い、医師の治療方針などを考える上で、患者さんに一番近い看護師の役割が重要であることに気づきました。自分が退院支援、退院指導を行った患者さんが通院時に「ちゃんとできていますよ。」と喜んでくださった際、行った看護に対して喜びと自信をもらうことができました。

4年間の臨床を経験し、看護の喜びや楽しさ、難しさ等多くのことについて学ぶことができました。その中で、多くの看護師が医療用画像についてより良い看護を行えるのではないかと考えました。そのため、今は臨床を離れ、本学大学院研究者養成コースに進学しました。解剖学や看護理論等の知識を深め、そこに対してどのように医療用画像を取り入れれば、看護師として有意義に活用できるかについて研究を行っています。今後、看護師には高い質の臨床判断や多職種連携、看護アセスメントなどが求められると思いますが、より多くの看護師が医療用画像を用いて質の高い看護ができるように、研究を進めていきたいと思っています。



大分県立看護科学大学
健康科学専攻博士課程(後期)
1年次 岩下 恵子

私は平成25年に本学を卒業し、地元長崎の国立病院機構長崎医療センターに看護師として就職いたしました。1〜3年目に在籍した循環器病センター(循環器内科・心臓血管外科・呼吸器外科の混合病棟)は、疾患の特性上、急変リスクが高く病棟は常に緊張感が漂っており、大変な病棟に配属されてしまったなと思ったのが第一印象でした。「自分の知識不足やミスが患者さんの命にかかわってしまう」という恐怖心から必

死に勉強した内容や、先輩看護師や医師から直接ご指導いただいた知識は今でもしっかりと覚えており、私の財産だと思っています。

その後、4〜5年目を肝疾患センター(肝臓内科)で勤務し、終末期をむかえる患者さんと家族との関わりを通して、命を救うことだけが医療の役割ではないことを痛感すると同時に、「私は看護師としてこれからどうしていきたいのか?」を考えるようになりました。色々と考えた結果、「大学の時に楽しいと思った研究(実験研究)をもう一度やりたい」「主体的に研究をできる力をつけて臨床に還元したい」という思いから、平成30年4月より、本学大学院博士前期課程(修士課程)健康科学専攻に入学いたしました。

大学院では卒論でもご指導いただいた、環境保健学研究室の甲斐先生と小嶋先生に指導教員になっていただき、放射線看護に関わる研究を行っています。修士課程では、がん放射線療法看護認定看護師の方々を対象にした質問紙調査を実施しました。質問紙を読みこんでいく中で、患者さんのために日々努力を続けていることへのリスペクトと、看護実践で得た成果や課題などを、他人である私に惜しみなく伝えてくださったことへの感謝の気持ちでいっぱいになりました。

令和2年4月より後期課程(博士課程)に進学しましたが、今後も臨床看護へのリスペクトと、支えてくださる先生方や先輩方、友人・家族への感謝の気持ちを忘れず大学院生活を過ごしていきたいと思っています。

看護学実習を終えて

「総合看護学実習」

4年時に実施する総合看護学実習は、今までの経験や知識を活かして、実習先や実習目的などを自分で一から決めて行う実習です。今までは先生の指示や要項に従って実習を行っていましたが、この実習は自主的に取り組む必要があり、そこが大きく他の実習と違う点でした。実習の要項を実習先の看護師の方にプレゼンしたり、実習についての連絡を自分で相談したりと大変でしたが、自分の学びたい領域で実習できるため楽しく学ぶことができました。

私は、術後の患者さんを受け持たせていただきました。心臓の手術を行ったのですが、その方は90歳代と高齢であったため術後は痛みがとても辛そうでした。またせん妄症状が強く、日付やどこにいるかがわからないなどの見当識障害がありました。初めてせん妄を患った患者さんを見て改めて手術が人体に与える影響の大きさを理解できました。講義で術後ケアのことについて学びましたが、実習で実際に術後の患者さんに関わっていくことでさらにそのことについての学びを深めることができました。

3週間の総合看護学実習を終えて、術後ケアと疾患の知識をさらに深めることができたとともに、看護知識を身に付け、患者さんの気持ちに寄り添えるような看護師になりたいと思いました。



4年次生 岡本 卓也

「総合看護学実習」

私はクリティカルケアの領域で働く看護師をテレビで見、看護師を志すようになりました。そして、最後の4年次生の総合看護学実習では救急病棟で実習が出来ることを知り、迷わず選択しました。

実習が始まり病棟に行くと、今までの実習では見たことのない重症の患者さんや医療機器、聞いたことのない言葉が多く飛び交っていてとにかく圧倒されました。私が受け持たせて頂いた患者さんは急性心筋梗塞で集中ケアを受けており、患者さんが苦しうにしているても何もできない自分自身に無力感を感じました。しかし、その経験から得たものも多くありました。現場には、言葉にして自分の意思を伝えることの出来ない患者さんが多くいます。その患者さんたちの言葉にならない「こえ」を聴くことの出来る看護師になりたいです。そしてその想いに応え、少しでも苦痛や不安を取り除くケアや安心感を与えられる看護を実践出来るようになりたいと思っています。

このような経験をさせていただいた実習施設の方や患者さんには本当に感謝しています。あの時実習で見た、憧れの看護師の方に少しでもはやく近づけるように、努力し続けます。



4年次生 高田 瑞稀

アレルギーだけでなく増悪因子にも要注意

私の研究テーマは、アレルギーに悪影響を及ぼす環境中増悪因子の探索です。アレルギーでは、その原因となる物質、アレルギーが体の中に入ってきたとき、体を守ろうとする免疫機能が過剰に働いて、炎症など様々な身体症状が生じます。増悪因子とは、単独では影響がないのに、アレルギーと共に体の中に入ると、アレルギー症状をより重症化させる物質のことです。スギやヒノキの花粉症に悩まされる人は多いですが、この花粉の飛散時期と黄砂飛来時期が重なると、患者数が増えたり症状が重くなったりすることがわかっています。つまり、黄砂は花粉症の増悪因子ということです。私は主にアトピー性皮膚炎や喘息の増悪因子の研究をしてきました。昨今、感染症の流行により、消毒が以前よりも注目されていますが、有効成分の中にはアトピー性皮膚炎を悪化させるものがありました。

動物実験の結果では、塩化ベンザルコニウムなどの第四級アンモニウム塩は皮膚炎を強く悪化させました。また、ミスト状にした塩化ベンザルコニウムを吸入させるとアレルギー性喘息やアトピー性皮膚炎が悪化する結果を得ました。

さらに、ごく微量の増悪因子曝露でもアレルギー症状が悪化することがわかってきました。プラスチック製品の原材料として使用されている物質をマウスに経口投与したところ、その投与

量が毒性的に影響の無い量(最大無毒性量)よりもさらに少ない量にもかかわらずアトピー性皮膚炎の悪化が認められました。最大無毒性量付近の曝露量でもアレルギーを悪化させる物質は他にもまだある可能性があり、今後研究を続けていきたいと考えています。

増悪因子の怖さを強く実感したのは、黄砂の研究をしていたときでした。このときはアレルギーをものすごく少量にしました。アレルギー単独ではアレルギー症状がほとんど出ないぐらいの少なさです。ところが増悪因子である黄砂を共に曝露すると、マウスにひどい喘息病態が生じるのです。同様の作用が、他の微細粒子状物質でもみられることがわかってきました。どうしてこのような現象が起きるのか、難しい研究テーマですが、解明に向けて一歩ずつ歩みを進めたいと思います。

これらの研究成果は、当研究室の市瀬孝道教授を始め、歴代の卒論生と共に行ってきたものです。



生体反応学研究室 学内講師
定金 香里

Research introduction



研究紹介

高次元データに対する統計解析法の開発

世の中の多くの現象や出来事に関するデータを収集し、分析をすることで、その本質を捉えようとする取り組みは多くの分野で実施されています。分析をするデータが複数の変量(次元)を含む場合、多変量解析の手法を用いて分析をすることがあります。しかしながら、広く知られている多変量解析の手法の多くは、次元数が標本サイズを超えるような高次元のデータに対しては用いることができません。例えば、「ヒト」に関する遺伝子データを解析する際、データの次元数が数万にもなる一方、標本サイズがほんの数しかない事例が数多くあります。このような高次元のデータに対しても、何らかの特徴を見出すことが可能な統計解析法を開発し、それらの手法を評価することが私の研究内容です。

高次元データに対応できる新たな統計解析法を開発する研究は、近年の急速な情報化社会の進展やビッグデータ解析、データサイエンスの流行も相俟って、活発になされています。

そのような社会情勢のなか、私はこれまでの研究で、高次元のデータであることを仮定した下での判別分析法の誤判別確率の推定法や判別分岐点の決定方法、平均ベクトル間の同時信頼区間の構成、二元配置多変量分散分析等

を提案してきました。これらの研究は、高次元のデータに対して何らかの特徴を見出したいときに役立ちます。

そして、これからの研究では、高次元データに対する統計解析法につきまとう「仮定」に着目して研究を進めます。現在の高次元データに対する統計解析法は、様々な「仮定」を満たす前提のもとで成立しています。例えば、データの成分間の相関が強い高次元データは、ほとんどの統計解析法で置かれて「仮定」を満たさないため、直接解析することができません。そこで、「仮定」を緩める、あるいは現実のデータが無理なく満たせるような「仮定」に置き換える研究を進めます。これにより、より多くの種類の高次元データに対して、適切な統計解析ができるようになります。



健康情報科学研究室 助教
渡邊 弘己

「未来応援基金」ご寄付のお願い

「未来応援基金」は、大分県立看護科学大学創立 20 周年を契機に、学生の学業の継続や地域との連携、国際化・グローバル化への対応等、学生・大学院生の活動を支援するために設置された基金です。

確かな看護の力で地域の保健医療を牽引し、より良い社会を創造する看護職を育成するために、皆さまの温かいご支援を心からお願い申し上げます。

目的

学生の学業の継続や、地域連携の更なる充実、国際化・グローバル化への対応等、学生・大学院生の活動を支援し、その充実を図ることを目的とします。

使途

皆さまからいただいたご寄付は、学生・大学院生の支援のため、下記事業に活用させていただきます。

- (1) 学業の継続(奨学金の給付、授業料等の減免等)
- (2) 地域連携(地域貢献活動への支援、地域の保健医療機関での研修支援、自治体・地域・企業と連携した研究教育等)
- (3) 国際化・グローバル化への対応(短期留学、国内外での活動、研修派遣等)
- (4) その他、基金の目的達成に必要な学生・大学院生の活動支援

ご寄付をお願いする方

基金の趣旨にご賛同くださる方ならどなたでもご寄付いただけます。

寄付金額

金額は特に定めておりませんが、1口 1,000円として何口でも可能です。

ご寄附の方法

大学ホームページ(<http://www.oita-nhs.ac.jp/>)掲載のフォームからお申し込みいただくか、本学事務局まで電話にてご連絡をお願いします。

お問い合わせ先

大分県立看護科学大学未来応援基金事務局 (大学事務局総務グループ内)

TEL : 097-586-4300(代表) FAX : 097-586-4370

E-mail : somu@oita-nhs.ac.jp

看護ひとくちメモ



冬の風邪予防 ~免疫力は腸内環境から~

腸は体の内側にある臓器ですが、体の外側にあるのと同じくらいさまざまな病原体と接触する機会が多い場所といえます。そのため、それらの病原体をいち早く察知して、体から排除するために、腸には免疫機能が集中していると考えられています。腸内環境を決めるのは、腸内細菌のバランスです。腸内環境が悪いと、免疫機能がうまく働かず、細菌やウイルスが体内に入ってきたときに防ぐことができず、風邪などにかかりやすいと言われてます。



そこで、腸内環境を整えるために次のような食品を意識して取りましょう。

《ごぼうや、さつまいも、きのこ類、大豆、玄米》などは、有害物質を体外へ排泄し、糖質・脂質の吸収を穏やかにしたりする働きがあります。

《こんにゃく、海藻、きのこ類、野菜やりんご》などは善玉菌を増やし有害物質を体外へ排出し、糖質・脂質の吸収を穏やかにしたり、血圧の上昇を抑えたりする働きがあります。



《ビフィズス菌や、乳酸菌、納豆菌》などは生きたまま腸に届く善玉菌でヨーグルトやみそ、キムチ、ぬか漬、納豆等が主な食品です。



朝食は特に大切!

朝食は体内時計のスイッチになりますので、免疫機能もスイッチオンになります。さらに、朝食を食べると「胃・大腸反射」がおきます。そうすると、朝食後に排便が起こりやすくなり、毎朝の排便リズムをつくりやすくなるのです。

腸内環境を整えることは、風邪予防にもなり、お腹のトラブルも解消できて、イイことばかりです!!この冬は、腸内環境を整えて風邪を引かないように免疫力を高めていきましょう。

Schedule [スケジュール]

1月	16日(土)・17日(日)	大学入学共通テスト
2月	11日(木)	助産師国家試験
	12日(金)	保健師国家試験
	14日(日)	看護師国家試験
	25日(木)	一般選抜(前期)、私費外国人留学生選抜
	26日(金)	進級試験(2年次生)
3月	1日(木)	春季休業開始
	4日(木)	大学院研究計画報告会(研究・広域・リカレント)
	5日(金)	修士・博士修了判定
	5日(金)	大学院研究成果報告会
	12日(金)	一般選抜(後期)
	18日(木)	卒業式・修了式
4月	8日(木)	入学式
	9日(金)	全学オリエンテーション
	9日(金)・12日(月)	新入生オリエンテーション
5月	19日(水)	キャンパスクリーンデー
	22日(土)・23日(日)	若葉祭

注)スケジュールは、変更になる場合があります。

看科大 [17号] クイズ・プレゼント

問題 1年次生の初期体験実習では、〇〇を活用した学内演習を行いました。

〇の中に正しい文字を入れ、下記のとおりはがきでご応募いただくか、クイズの答えなど1~5までを記載して、メール(koho@oita-nhs.ac.jp)でご応募ください。正解者の中から抽選で3名様に図書カード(2,000円分)をプレゼントします。

<p>郵便はがき</p> <p>8 7 0 1 2 0 1</p> <p>大分県立看護科学大学事務局 行</p>	<p>大分市大字廻樫野2944-9</p> <p>1. クイズの答え</p> <p>2. 郵便番号</p> <p>3. 住所</p> <p>4. 氏名(年齢)</p> <p>5. 記事のご感想や 本学へのご意見</p>
--	---

【締め切り】令和3年1月31日 当日消印有効

当選者の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

